

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

平成29年7月31日に平成29年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（平成29年8月～12月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での予報を報告します。

■ 海況

黒潮：8月後半にB型になり、10月にC型基調となる。以後、C型基調で変動する。
沿岸水温：相模湾および伊豆諸島北部海域とも、9月はB型流路からの暖水により、「高め」から「極めて高め」で推移する。10月以降は「平年並」～「低め」で推移し、暖水波及時に「高め」となる。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、
 高め：平年値+1.5℃程度
 低め：平年値-1.5℃程度

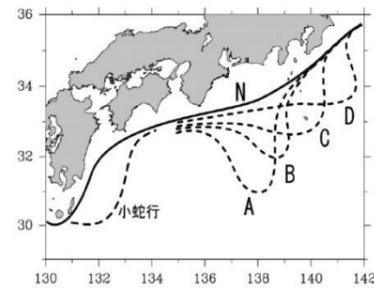


図1 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ）

来遊量：前年を上回る。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は、2000年代以降増加していますが、神奈川県沿岸の定置網や一本釣りでの漁獲量は、資源量の増加に反して、ここ数年減少しています。

これまでの研究から、東京湾～相模湾におけるマサバ漁獲量は、① 当年5月の伊豆半島東岸定置網のマサバ漁獲量、② 当年6月の伊豆大島周辺の塩分、③ 当年8月の東京湾の水温と関係があると考えられています。この関係に基づき、今期の来遊量を予測したところ、前年を上回ると見込まれました。

魚体サイズは、1～4月に県漁業調査指導船「江の島丸」が伊豆諸島周辺で行った調査で尾叉長29～32cm（体重280～390g）主体に漁獲されたことや、現在、相模湾の定置網で同サイズが多く漁獲されていることから、今シーズンはこのサイズが主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：前年を下回る。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

なかでも2015年級群は近年にない卓越年級群（生き残りが多い年級群）とされており、2017年1月～6月は明け2歳魚として各地で漁獲の主体をなしていました。

2017年8月～12月は、0歳魚（2017年級群）が漁獲の主体となるでしょう。下半期の本県沿岸域での0歳魚の漁獲量は、相模湾での春シラス漁におけるマシラス漁獲量と正の関係が認められていますが、今年のマシラス漁獲量は前年同期の75%と下回ったことから、下半期の漁獲量は前年を下回るでしょう。



■ カタクチイワシ

来遊量：前年を下回る。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域での分布量の減少が顕著になっています。魚体も高水準期を支えた大型成魚（体長12cm以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2017年8月～12月は、未成魚（体長9cm未満）が漁獲の主体となるでしょう。前年は8月の漁獲量が2007年以来の200トンを超えとなりましたが、今年はそのような漁獲はないものと思われます。



■ マアジ

来遊量：前年を下回る。

（説明）マアジ太平洋系群の資源量は、1997年以降減少傾向で、相模湾沿岸定置網での漁獲量も2009年以降減少傾向となり、近年は低位で横ばい傾向です。

例年、上半期に相模湾へ来遊するマアジは0～1歳魚が主体となりますが、2017年上半期のマアジ0歳魚漁獲量が非常に低調であったこと、および東シナ海由来の2016年級群および2017年級群の来遊もあまり期待できないことから、2017年8月～12月の来遊量は前年を下回るでしょう。

